

2016 年度「研究者の横顔」 長山 聡先生

1. 研究者になろうとしたきっかけ

最近、腸内細菌叢といくつかの病気との関連が注目されています。その中で、我々は、腸内細菌叢の乱れが大腸癌の発症と関連していないかどうかを明らかにしようと研究を開始しました。

2. 昨年度からの研究の進捗状況

(1)これまでに、健常人 967 名（男 478：女 489）および大腸癌患者 512 名（男 271：女 241）の血液検体および便検体の回収を終了しました。

(2)糞便サンプルから DNA を抽出し、次世代シーケンサーを用いて細菌に特有の遺伝子領域のシーケンシングを行いました。得られた膨大なシーケンスデータをもとに、各個人の腸内に、どのような腸内細菌がどれぐらいの割合で存在しているかを計算しました。その後、種々の統計学的手法を用いて、健常者群と大腸癌患者群との間で菌体数に有意差のある腸内細菌を複数種類同定しました。

3. 全国の RFL 関係者に一言

大腸癌の発症予防および早期発見につながる研究にしていきたいと考えています。